

琉球大学学術リポジトリ

ナショナリズム的アジェンダと日本における長引く
危機：
沖縄県における第二次安倍政権下の政策の実施の事例

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学 公開日: 2018-05-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: マチエイエフスカ, ベアタ, Maciejewska, Beata メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/40986

様式第7号

学 位 論 文 要 旨

学位論文題目

ナショナリズム的アジェンダと日本における長引く危機

— 沖縄県における第二次安倍政権下の政策の実施の事例 —

**Nationalistic agendas and prolonged crises in Japan:
The case of the second Abe administration's policy implementation
in Okinawa**

琉球大学大学院

人文社会科学研究科

比較地域文化専攻

学生番号

氏 名 マチエイエフスカ・ベアタ

学位論文要旨（横書き楷書、ワープロ可、字数800字程度）

1990年代以降、「失われた20年」という言葉とともに、今日の日本が多面「危機」的な状況にあるとの認識が浸透してきた。こうした「危機」への対応の一つに、第二次安倍政権下の政策である。そして、このような状況下で、ナショナリズムがどのように日本の内政を形成しており、安倍政権の政策が地域にどのような影響を与えているかという問題が浮上している。

本研究の目的は、沖縄県の事例を用いて、現代日本のナショナリズムの役割を探求することである。そこで、本稿は、「危機」において呼び起こされたナショナリズムと安倍政権との関係性について考察し、危機の概念に照らして第二次安倍政権下のナショナリズム的アジェンダに新たな光を当てる試みである。

本稿は7章からなる。この7章は大きく二つの部分に分けられる。一つ目は、危機の概念、戦後日本におけるナショナリズムおよび安倍政権に関する総括を提供する部分である。第1章では、まず多面的な危機に晒されている日本に焦点をあてる。学界において、危機の概念の有意義に関する議論を総括する上で、経済的、政治的、社会的な視点から見れば、「危機」は第二次安倍政権にはどのような役割を果たすということ考察する。第2章では、先行研究によるナショナリズムの概要とそれに基づく日本のナショナリズムの本質についての先行研究のまとめを述べる。次いで以上の二つの章を考慮し、第3章では第二次安倍政権を分析する。

二つ目は、事例分析に基づいた部分である。第4章の沖縄の概観をはじめ、第5章から第7章まで、厳選された三つの政策（国家戦略特区、原子力政策とジェンダー政策）を軸として分析を行う。このような具体的な事例を生かし、沖縄県の視点に照らして第二次安倍政権を熟考する。第4章では、第二次安倍政権における沖縄県の位置を特定する。次の三つの章（5-7）沖縄県を考察する。沖縄県の事例を用いて、本論文は、現代日本のナショナリズムの役割を探求することを目指す。結論で分析のまとめとそこから導き出される今後の研究の課題を述べる。

キーワード：第二次安倍政権、危機、ナショナリズム、沖縄
